R-1　南三陸町歌津地区寄木集落　　2013年1月15日（火）

報告者名　林　勲男　　被調査者生年　なし
調査者名　林　勲男　　被調査者属性　なし
補助調査者　なし　　（参与観察調査のため被調査者の情報なし）

本報告は、ささよ行事の観察調査の記録である。

寄木の被害状況

47軒あったが、そのうち35軒が流された。寄木にも9世帯の仮設住宅があるが、他地域に建設された仮設住宅にも寄木から入居しているので、現在、住民はバラバラになってしまった状態である。90歳代の男性1名が亡くなり、80歳代の女性が行方不明のままである。

契約会が所有する高台の土地に寄木から23軒が移転し、4軒が自分の土地に住宅を再建し、他は公営住宅に入居する予定である。高台の移転先には、隣の集落である韮の浜からも18軒が移転の予定である。

「ささよ」への影響

子供が自宅に持ち帰っていた法被3着のみが無事だったが、他のものはすべて津波で流されてしまった。ささよは年中行事であり、海上安全と大漁を祈願するものであるので、継承のためにも中止すべきでないと、2011年の12月に翌月の開催を決定した。しかし、時期的に法被が店で手に入りにくかった。すると、地区のある奥さんが一晩で3着を縫い上げてくれた。

行事では、本来ならば全世帯を一軒一軒訪ね歩き、各家の門口ごとに大漁旗を立て掛けてお神酒を注ぎ、海上安全と大漁を祈願するのであるが、災害発生後は寄木の港と仮設住宅でおこなうこととした。流されなかった家を回った後に、仮設に入居している全世帯も回るという案もあったが、夜までかかる行事のため、寄木以外からの仮設入居者にとって迷惑になってはいけないと、各世帯主はご祝儀とお神酒を持って港に集まりそこで参拝し、そのあとで子供たちが寄木の仮設でも祈願することにした。

2013（平成25）年の行事の様子

1月15日、年中行事である「ささよ」に先立って、午後2時50分に寄木浜の港で「ささよ太鼓」の演奏が始まった。ささよ保存会会長の畠山鉄雄氏が進行役を務めた。

大勢の報道関係者に少し戸惑いながらも、子供たち13名（男6、女7）は元気な掛け声を出しながら2回のささよ太鼓の演奏をおこない、集まった地元の方たちも大きな拍手と声援を送っていた。

続いて、男子6名による「ささよ」が行われた。「ささよ」は、地区の小中学生の男子全員が参加しておこなう、大漁と海上安全の祈願を込めた年中行事である。揃いの法被と鉢巻き姿で港の船揚場に並び、大漁旗を立てて竿の根元にお神酒をかける。そして唄う。

今年のささよも港での行事の後は、寄木の仮設住宅団地に移動して、その入り口に大漁旗を立て掛け、入居者からのお神酒をその根元に注いで唄った。ご祝儀のお金や餅、菓子などが子供たちに渡され、行事終了後に大将役の最年長の中学生が、このご祝儀を子供たちの間で分けることになっているが、その場面は非公開であった。

災害以前からの少子化で、ささよの継続のために、男子だけでなく女子の参加も話題にはなっていたが、現在のところまだ男子だけの行事として行なっている。

写真１　ささよ行事①ささよ太鼓

写真２　ささよ行事②

写真３　ささよ行事③

写真４　ささよ行事④

ささよの唄

明治末期頃までは、その年の年長者が唄い、そのあとに続いて囃して各家々に唄いこんだが、その後に元唄をなくし、囃しのところだけで唄いこみをおこなっていた。昭和 23 年に、畠山吉雄氏が新たに作詞をして現在まで唄い継がれている。昭和 55 年（1980）に旧歌津町の無形文化財の指定を受け、ささよ保存会が発足し、初代会長には畠山吉雄氏が就いた。法被はこの時に揃えた。

歌詞

1. おめでたい　あらよう　三めでたい　かさなるとえー
2. お船玉　あらよう　とらせるさかな　さづけたまえやー
3. 雨がふる　あらよう　船戸にかさを　わすれきたどえー
4. 呼べば来る　あらよう　呼ばねば来ない　せきの水どえー
5. あれを見ろや　あらよう　しまかめ山の　ゆりの花とえー
6. けせんざか　あらよう　七坂八坂　九坂とえー
7. 十坂めには　あらよう　かんなをかけて　平らめるとえー
8. おらが寄木浜　あらよう　漁のある浜だ　おめでたいやなー

9.　みなといり　あらよう　ろかいのちょうし　いりこむとえー
　ささよー　よいとこーら　よいとなーえー
　へんややー　へんややー　へんややー

　東日本大震災発生後は文化庁の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」と東日本鉄道文化財団の支援によって、太鼓と法被などを新調した。今年は大太鼓２台を他地区から借用して開催した。大太鼓に関しては、新たな助成事業を申請することを検討中である。